

「これからの学校の姿とは…」

宮崎県教育庁義務教育課

計画担当 指導主事 小松 宏

1 本年度の学校

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために学校が臨時休業になるなど、学校においても今までの常識では考えられない日々が続いた異例の年となり、学校における新しい生活様式により学校も大きな変化を伴うこととなりました。修学旅行は、県外に行く必要があるのか、運動会や体育大会は終日実施の必要があるのかなど今までは当たり前と思っていたことが当たり前でなくなり、発想の転換を強いられたのではないのでしょうか。しかし、考え方を変えれば、このことは、ピンチであると同時に学校を見直すチャンスであったのかもしれない。これまでの学校は新しいことをビルドするばかりでスクラップできず、先生方の働き方改革はなかなか進んでいないのが現実だった気がします。今回のコロナ禍で、学校や社会が少しでも良い方向へと進んでいくと信じています。

2 本県におけるへき地教育

本県におきましては、児童生徒数の減少等により、ここ10年間で、小学校は29校、中学校は16校が統廃合されました。今後5年間で義務教育段階の児童生徒が約5,000人の減少と予想されております。

また、本県のへき地等学校は、小学校28校、中学校15校、計43校あります。本年度に複式学級を有する平地校は、小・中学校で39校と県内の全小・中学校の10.2%を占めています。

このような状況の中、県教育委員会では、令和元年に策定した宮崎県教育振興基本計画の「魅力ある多様な教育の進行・支援」の中で、小規模校ならではの「よさ」を生かした教育の推進と教職員の資質の向上にむけて、へき地・小規模校の教育の充実を図っているところです。例えば、本県で作成し、各学校に配布している「複式学級指導資料」（冊子・DVD）は、複式学級特有の教育的課題をはじめ、教育課程の編成や指導の特質、具体的な指導方法や指導形態について、より実践的な内容を示しており、日々の授業や研修において積極的な活用が図られております。

また、本年度は中止となってしまいましたが、初めて複式学級の担任になった先生方を対象に、職能研修「複式学級初担任」を実施する予定としておりました。研修は中止されましたが、校長先生を中心にOJTを実践し、これまでの経験を後輩の先生方に伝えていただけると幸いです。

3 ICTの活用（GIGAスクール構想）

令和元年12月に国は、これまでの教育実践とICTをかけ合わせることで、学習活動の一層充実を図り、個人個人に適した教育を行うことを目的とした「GIGAスクール構想」の実現に向け、次世代の学校像を示しました。児童生徒一人一人に個別最適化された学びが提供され、一人一人の資質・能力が確実に育成でき、教師・児童生徒の力を最大限に発揮できることを目指しています。

また、本年度より小学校で施行されている学習指導要領にも情報活用能力を言語能力と同じ様に学習の基盤となる資質・能力として、初めて位置付けました。つまり、これからの時代を生き抜くためには、情報を活用することは必須の能力であり、そのツールとしてICTを活用することが重要であるということが明確に示されたということになります。

そのような中、県内でもICT機器の整備が加速化されています。次年度には、県内のほとんどの小・中学校において一人一台のタブレット等の端末が整備されます。今までは、授業で画像を拡大して示したり動画をプロジェクタで投影したりして、教員が使うことがメインでしたが、これからは子どもたちが使うことが当たり前となります。つまり、今まで以上に教員のICT活用指導力の向上が鍵となります。

ICTは、児童生徒の数が少ないへき地・小規模校においては、特に有効なツールとなると考えます。例えば、他人の意見を聞く機会が少ないからこそインターネット上の膨大な情報から他人の考えを知ることで対話的な学びを実践したり、地域の方々や他の学校、場合によっては海外の人と遠隔でコミュニケーションを取ったりと工夫次第で、少人数のデメリットを克服することも可能となるはずです。しかし、注意していただきたいのは、ICTを使うことが目的となつてはならないということです。授業においては、教科の目標を達成することが最も重要です。そのためうまくICTを組み合わせていくことが大切です。なぜこの場面でICTを活用するのかを考えながら授業を計画し、実践を積み重ねていくことが指導力向上の第一歩となると思います。何事も第一歩を踏み出すには勇気が必要です。今の社会で求められる学校の在り方はどうあればよいか、時代の流れを捉え、それぞれの学校がその一歩を踏み出していただければ幸いです。

4 へき地・小規模校教育研究大会

本年度は、佐賀県や富山県で開催予定であった九州及び全国へき地・小規模校教育研究大会は、全て紙面発表という形となりました。いよいよ次年度は宮崎県で「神話の里みやざきで ふるさとの未来を創る 子どもを育てよう！」をスローガンに掲げ、「第70回全国へき地教育研究大会」が開催されます。県内8校の小・中学校での分科会も計画されています。その開催に向けて、県へき地・小規模校教育研究連盟の校長先生方を中心に準備が進められております。開催にあたって、多くの先生方の御協力が必要になりますのでよろしく願いいたします。